



## ケアマネジャー (介護支援専門員) やました りえ 山下 梨詠 さん (37)

### ありがとうと言ってもらえる それが嬉しく、励みになる

ケアマネジャーは、介護が必要な人の状況に応じて調整を行い、専門的なサービスプランを作成する仕事だ。サービス利用開始後も、定期的に訪問して利用者の状態を確認し、プランの見直しを行う。

山下梨詠さんは、小林市社会福祉協議会介護センターのケアマネジャー。

「子ども時代は祖父母と同居していたので、高齢者を助けたいという気持ちは昔からありました」。

だが、はじめから介護の道を選んだわけではなかった。県外の専門学校で音楽を勉強後、小林に帰郷。一度は地元企業の事務員として就職した。

転機は長女の出生。子育てしながら働ける仕事を探すなかで、自宅で暮らす高齢者の日常生活を援助するホームヘルパー（訪問介護員）という仕事を知った。

ホームヘルパーは、一度の訪問時間が短く、自宅から訪問先に直接通えるため、忙しい子育てとの両立ができた。

「子どもが病気の時などに訪問を代わってもらうなど、職場の人にも協力してもらえました」。

ホームヘルパーとして働くうちに利用者の人生にもっと深く関わりたい、役に立ちたいと感じ、1年7ヶ月前にケアマネジャーの資格を取得した。

ケアマネジャーは利用者の人生の最期の時まで関わることもある。よかったと思える人生であってほしい

と、利用者の気持ちに寄添った支援を心掛けています。

ケアマネジャーの仕事のやりがいを探ると、一人暮らしの男性利用者とのエピソードを話してくれた。

男性は、はじめはホームヘルパーの訪問を嫌がっていたが、山下さんが訪問を繰り返して信頼関係を築くことで、ホームヘルパーの訪問を受け入れるようになり、生活環境が改善された。

「今は訪問するたびにありがとうと言ってもらえる。それが嬉しく、励みになります」。

今後の目標は、主任ケアマネジャーになること。そのためにもつと経験を積んでいきたいと意気込む山下さんは、決意を胸に今日も利用者の元へ向かう。



写真④職場はアットホーム。人間関係に恵まれたと話す。④この日は利用者の誕生日で、お花をプレゼントした。